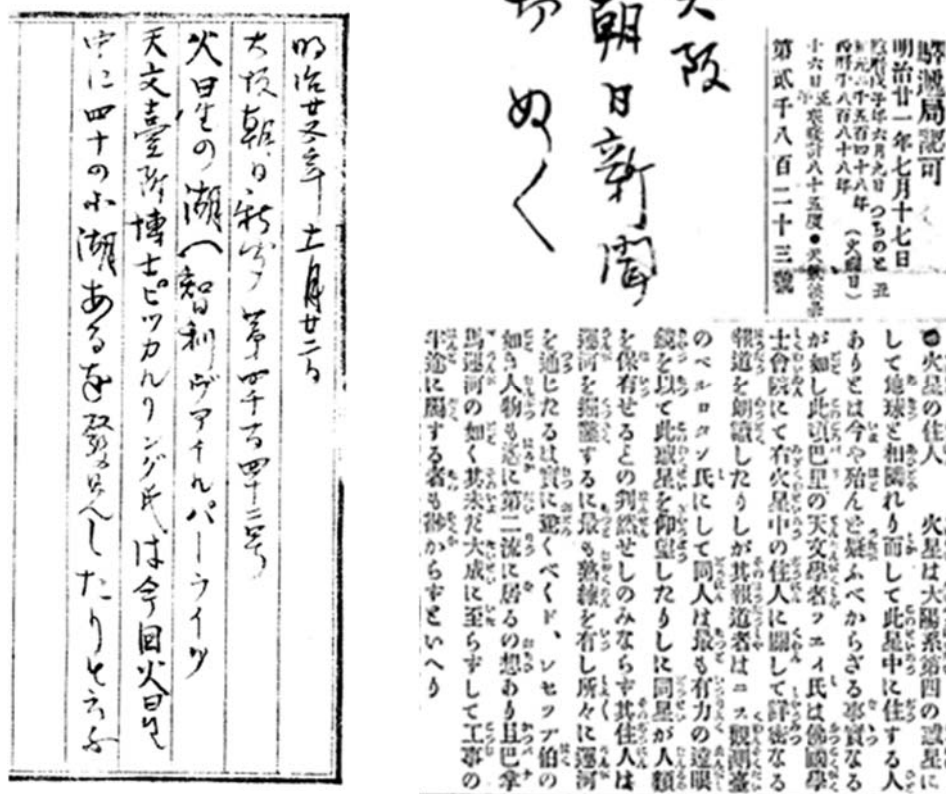


明治21年（1888年） 火星にも生物がいる証拠が発見された？

今から約 130 年前のニュースである。小さな記事ではあるが、当時の人々を驚かせるには充分であったのだろう。貼付記事は数少ない曾祖父の随筆の中から抜粋したものである。この切り抜きと共に、5 ページに及ぶ文書がしたためられていた。



火星の運河 (Wikipedia) によると、19 世紀後半および 20 世紀前半の一時期、火星の運河が存在すると信じられていた。「運河」とされたのは、天文学者によって写真の無い初期の低解像度の天体望遠鏡によって観測された、火星の北緯 60 度から南緯 60 度までの赤道付近の地域にある網目状の長い直線であった。1877 年、衝のあいだにイタリアの天文学者ジョヴァンニ・スキアパレッリによって初めて記述され、そして後の観測者らによって確認された。スキアパレッリはこうした線を「溝」(canali)と呼び、これが「運河」(canals)と英訳された

曾祖父は明治 25 年の続報 (左の図) にも関心を示している。曾祖父は今でいえば文科系の人であったと思うのだが、明治という時代、多くの人々が知識を追い求めたのだろう。